



ISSUE No.5
JAN 2010
[日本語版]

STRANGE FOLK

KULA SHAKER FANZINE

EXCLUSIVE
Interview
with the band

MAURICE BACON
Kula's new
manager speaks

REVIEW
PP&A Anniversary
Edition

+ The story behind Peter Pan

+ Photos from last year's gigs and the studio

Strange Folk is back!

親愛なる辛抱強い仲間たちへ

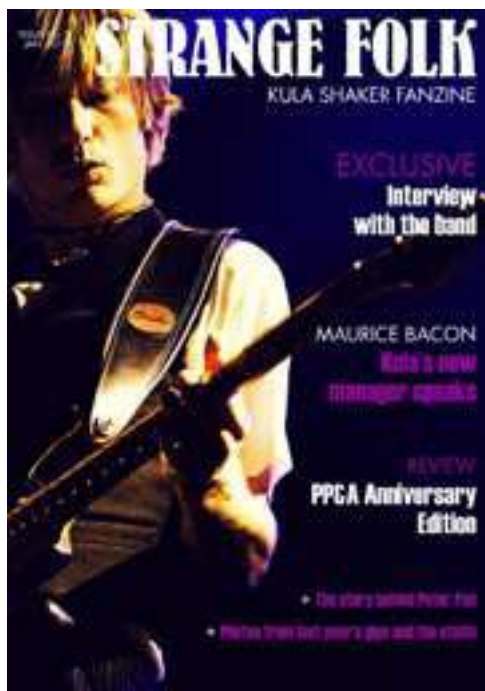
ここ2年間、私たちの最愛のバンドの周りはひっそりとしていました。子供達が生まれ、数曲がレコーディングされましたが、残念なことにライブはほとんど行われませんでした。何でライブがなかったかって？ 私たちも知りたいです…。だから、それを一番良く知る人に尋ねるのが最善だと思ったのです。そう、Kula Shaker に。そうです、それは現実には起こったのです！ 本誌は独占インタビューを入手しました！ 私たちが一番に、どこよりも早く素晴らしい情報を知ることが出来るのです。信じられますか？

もちろん、本誌が手に入れたのは独占インタビューだけではありません。以前のフェス出演時の素敵な写真もあれば、ピーターパンがゲスト出演してきたり、美しいアートワーク、噂話もあります。その上、それでは足りないかのように、Kula の新マネージャー Maurice Bacon へのエキサイティングなインタビューをお届けできることを嬉しく思います！

内容があまり幅広くはないかもしれませんが、これまでの号と同様にこの第5号を楽しんでもらえると嬉しいです。第6号があなたのパソコンに届けられる時、そこにはもっと多くの記事があることに期待しましょう。もうしばらくかかるかもしれませんが…。

Enjoy !

Andrea & Dan



ご意見、感想、情報がありましたら、ぜひ聞かせてください！
以下までお寄せください。

<http://www.facebook.com/pages/Kula-Shaker-Fanzine-STRANGE-FOLK/191115977173>

<http://www.myspace.com/kulafanzine>

<http://twitter.com/KulaShakerZine>

Cover photo: Daniele Bianchi,
<http://www.concertinalive.it/>

Contents

- 2 あいさつ
- 3 目次
- 4 NEWS & GOSSIP
- 6 PP&A Anniversary Edition レビュー
- 9 GIG IMPRESSIONS 2009
PARKPOP (オランダ)、SOLFEST (イギリス) + YPSIGROCK (イタリア)
- 12 VICTORY TO LOAD KRISHNA
- 13 FLASHES FROM DEEP INSIDE — バンドインタビュー
- 17 スタジオフォト
- 19 TRAVELLING DOWN MEMORY LANE — The Story behind Peter Pan
- 21 歌詞 : Peter Pan RIP、Space Caravan、Baby Jesus
- 24 MAURICE BACON インタビュー
- 25 KULA アートワーク

Contributors

Editors:

Andrea Zachrau – text, photos
(hosannah@t-online.de)

Daniel S. Taylor-Lind – text
(smokinmojo@hotmail.com)

Layout:

Anni Kotisalo (anni.kotisalo@gmail.com)

Proof-reading: Mary Nilsson

With special contributions from:

Mary Nilsson
Valbhav Badal
Apolidia (photos)
Dan Wilson, www.photographynorthwest.com
(photos)
Peter Bruce (artwork)
Ian W (lyrics transmissions, pp&a review)

Special Thanks to Susheel and Maurice

日本語訳:

Mayuko
Mizuho

STRANGE FOLK AND KULA SHAKER ON THE WEB

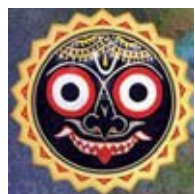
<http://www.kulashaker.com>
<http://www.myspace.com/kshaker>
<http://www.facebook.com/#/kulashaker>
http://twitter.com/kula_shaker

<http://www.myspace.com/kulafanzine>
<http://www.facebook.com/pages/Kula-Shaker-Fanzines-STRANGE-FOLK/191115977173>
<http://twitter.com/kulaShakerZine>

※訳者より:

これは、オリジナル版発行者である Andrea さんの許可を得て和訳してあります。また、原文中のスラング、ジョークは上手く訳せていない／訳していない箇所があります。読み苦しいところがあるかと思いますが、訳者は英語上級者ではありませんのでお許しください。 (英語が読める方は、オリジナルの英語版を読むことをおすすめします!)

News & Gossip



NEW WEBSITE

意外なことに、昨年 10 月に素敵な新しいウェブサイトがオープンしました。

www.kulashaker.co.uk にアクセスしてください。そして新しいフォーラムへの登録をお忘れなく！

TWEETS

Crispian は Johnny Depp のサインを手に入れたことがあるのかなって思うことはありませんか？ 犬の散歩をする時の Paul の話を読みたいですか？ ツイッターに登録して、彼らをフォローしましょう。

<http://twitter.com/CrispianMills>

<http://twitter.com/KulaShakerPaul>



ZINETWEETS

私たちのこともフォローしてもらえると、なおベターです！

<http://twitter.com/KulaShakerZine>

MIXING WITH DUCK

Crispian のツイートによると、Straw のキーボーディストであり、The Jeevas で既に Crispian の作品を作品をプロデュースしている Duck Blackwell が、London でのミックス作業に加わりました。Straw が解散した 2001 年、ベーシストの Dan McKinna とドラマーの Andy Nixon は、Crispian と The Jeevas を結成しました。

PARANOIA IN THE LAUNDERETTE

Crispian がツイッターを通じて語った多くのうちのひとつは、彼がある映画

の仕事をしていたということです。keelfilms.com によると……

1998 年、Bruce Robinson の最高傑作である短編小説 “Paranoia in the Launderette” が、ブルームスバリー社から出版された。“Withnail and I” では「危機に陥った役者」が描かれているのに対し、“Paranoia in the Launderette” では、精神的な兄弟を失った悲しみに関係している。

Jack はクリスマスにひとりだった。感情に乏しく、歳は 40 に手が届くころで、家庭内に問題があった。そんな Jack に長い間苦しんできたガーフルレンドは、自分で自分のことがまったく何も出来ない Jack を残し、最近出て行った。部屋に閉じ込められ、昼も夜も “Decades of Death” という TV シリーズの原稿を書くことが、彼の心の重荷になり始める。

トイレトペーパーを買う勇気さえない繊細な男は、この 19 世紀の殺人者についての研究で被害妄想癖を持ち、不眠症になる。Jack は “殺される” という馬鹿げた恐怖から、肉切り包丁を持って夜な夜なアパートの周りを忍び足で歩き回る。極度の疲労で幻覚症状を引き起こし、現実感覚が傾き恐怖と疑心の世界に入り込み、とうとう Jack はベッドの足元で殺人犯を見たり、自分はショッキングな極悪犯罪の呪われた最後の犠牲者になると思い込むようにまでなる。そしてついに Jack は、コインランドリー (Launderette) への恐怖の旅へと出るようになった。

脚本/監督：Crispian Mills

PETER P

Crispian が独占インタビュー (P.9 ~ 11) で、2009 年 9 月 27 日、ロンドンでの Anno's Africa というチャ

リティライブで、新曲 “Peter Pan R.I.P.” を演奏したことを明らかにしました。(www.annosafrica.org.uk)

こちらで映像が見れます。

http://www.youtube.com/watch?v=3nRyUtXZ_kM

LOVE NEVER DIES

昨年 Kula Shaker は、クリスマスまでの 12 日間をファンと一緒にカウントダウンし、気前良く、2 曲の新曲を聞かせてくれました。これ以上のクリスマスプレゼントはあるでしょうか？ じきに発表されるニューアルバムからのクリスマスシングル “Baby Jesus” と “Space Caravan” は、www.kulashaker.co.uk から無料でダウンロードできます。



KULA WAH

Crispian 信者の皆さんに朗報です。Mills 氏は、カスタム・ヴィンテージ・エフェクト・ペダルをムーロン社と共同で開発しており、その第一弾は、“THE STRANGFUZZ” です。

詳細はこちら：

<http://www.kulashaker.co.uk/boutique>

PP&A 10TH ANNIVERSARY EDITION

他のすべての音楽愛好家たちに更にエキサイティングなニュースだ。Kula の不評な 2nd アルバム “Peasants, Pigs and Astronauts” が 2010 年 1 月 20 日に再リリースされる！ 10 周年記念限定盤 2 枚組ボックスセットは、まずは Kula Shaker オフィシャル・ウェブ・ショップのみでの販売となり、以下の曲を収録した 2 枚の CD が封入されている。

CD1 (including the lost epic track Strangefolk!)

1. Great Hosannah
2. Mystical Machine Gun
3. SOS
4. I'm Still here
5. Radhe Radhe
6. Shower your love
7. 108 Battles (of the mind)
8. Sound of Drums
9. Timeworm
10. Last Farewell
11. Golden Avatar
12. Namami Nanda Nandanan
13. Strangefolk (the original title track)

CD2 (Astronauts Anthology)

1. Sound of Love (Bearsville studios session, which became Sound of Drums)
2. Avalonia
3. Golden Avatar (band demo)
4. Strangefolk (band demo)
5. 2009 年 11 月 13 日にロンドンで収録された、Peasants, Pigs and Astronauts の制作に関する、Roger Moron と Crispian、Alonza のインタビュー

+ ナンバー入りブックレット (限定 3,000 枚)

+ アートワークの原案ポストカード (4 枚)

+ 2010 年版アートワーク・ボックス入り (シュリンク包装)

KULA:SHAKER

PEASANTS, PIGS & ASTRONAUTS

You can order it here: <http://www.kulashaker.co.uk/boutique/>



Peasants, Pigs & Astronauts Revisited

by Ian W

これを読んでいる人が Kula Shaker の“難解な”セカンドアルバムについて知らないということはまずだろうが、いずれにしても、その複雑な歴史には振り返るだけの価値がある。マルチプラチナアルバム『K』に続くアルバム制作は、とても努力を要する仕事になって行き、そのアルバムが産みだすものとほとんど同じくらい壮大なものとなった。1999 年 3 月、『Peasants, Pigs & Astronauts』はついに店頭に並んだが、レコーディングは丸 2 年も前から始まっていた。まずはじめに Rick Rubin と George Drakoulias によるプロデュースで、ニューヨーク、その後ロサンゼルスで行われたが、最終的には Bob Ezrin が舵を取った（比喩的にも文字通りにも。というのも、最後のレコーディングは、テムズ川に係留された Dave Gilmour のハウスポート・スタジオ“Astoria”の穏やかなセッティングの中で行われたからだ）。

プロデューサーの件のほかにも、非常に長いアルバム制作期間中には様々な変更があった。そのひとつには、収録曲リストが時間とともに徐々に進化していったことが挙げられる。“Strangefolk”や“Light of the Day”といった初期の候補曲は、後にレコーディングが開始された“Mystical Machine Gun”などに道を譲ることとなった（おそらく最も古い Kula Shaker の曲である“Shower Your Love”は、『K』が発売される以前に作られた最初のデモであるが、皮肉なことに、実際には最後にリリースされる曲となった）。最後のアルバムに収録された曲でさえ、多くの場合、長い期間をかけて進化を遂げた。例えば、(PP&A 再リリース盤のボーナストラックとして収録されている)“Sound of Love”は、後に“Sound of Drums”となり、アルバムからのファースト・シングルとなった。この初期のテイクは、(同じ曲であることが)何とか認識出来る程度の歌詞だったり、追加された部分も後々カットされたりで、完成したものとは大幅に違う。

アルバムタイトルも時の経過と共に変化した。当初は 1998 年半ばに『Strangefolk』というタイトルでリリースされる予定だったが（その年のグラストンベリーのプログラムでそう告知されていた）、同タイトルの曲がアルバム収録曲から外れ

た時に、そのアルバムタイトルも共になくなった。今回の 10 周年記念盤に収録されているインタビューで、Crispian が、『Peasants, Pigs & Astronauts』というタイトルにはちっとも満足していないが、『Strangefolk』に反対する人たちに説き伏せられ、結局それに同意することになったと語っている。これは多分、2 作目のアルバムタイトルとして選ばれなかった『Strangefolk』が、何故復帰作であるサードアルバムのタイトルになったのかという理由の一つになるのではないだろうか。おそらくこの言葉に含まれるところは、今回は少々の妥協ですんだということだろう。

制作が長期化したことにより、『Peasants, Pigs & Astronauts』が初回の売り上げで商業的に失敗したことは、そう驚くことではない。リリースの遅延や（この遅延のせいで前作で築いた商業上の勢いの殆どを失うこととなった）、『K』のリリース以来バンドに付きまとっていた様々な論争により、Kula Shaker は多くの損害を被った。そして、リリース後たった 2 ヶ月で Kula Shaker が解散したとき、このアルバムの墓碑銘が既に墓石に鋳られたように思えた。バンド自体をも破壊してしまうような、重大な失敗をしたアルバムだった。



ただし、物語はこれで終わりではなかった。この壮大で誇張されたアルバムは（ミュージックプレスのやりたい放題の騒ぎなどそっちのけで）、多くのファンが実にずっと待ち望んでいた Kula Shaker のアルバムだった。彼らにとって、欠点だと思われていたことは、実際は大きな強みだったのだ。待ち望んでいたファンたちは、アルバムの長さや、“Great Hosannah” や “Mystical Machine Gun” のように正気とは思えないほど度を越えて発狂するロックから、“I’m Still Here” や “Timeworm” といったより神妙な楽曲に転換するといった）音楽的アプローチが無差別なことは気にしなかった。この二重性は、そう驚くことではない。インタビューの中で Kula Shaker は、Andrew Lloyd-Webber と Tim Rice 合作の大げさなロックオペラ “Jesus Christ Superstar”、また、他のアーティストには興味がないと思われた方法で間近に迫ったミレニアムに取り組みたいという真剣な願望が、どうしてアルバムの対の影響だったかということについて語った。これらの曲の中に加えられた “Namani Nanda-Nandana” や “Radhe Radhe” も、かつて評論家たちが「単なる見せかけに過ぎない」と切って捨てた彼らの東洋のスピリチュアリズムが、私たちリスナーに（偽物ではなく）本物であると感じさせてくれる仕上がりになっている。おそらく Johnny Rotten（※訳注: Sex Pistols のボーカリスト）は「やれやれ、あいつら本気だぜ…」と言うだろう。

11 年を経て、ついに、このひどく中傷されたアルバムが適切に再評価される時が来たようだ。新しくリリースされる再販盤 PP&A の販売促進となるものは、追加された様々なおまけだ。このリリースが発表された 2009 年末、ファンはその約束された楽しみによだれを垂らしていたと言ってもいいだろう。必然的に、失われたアルバムの伝説的トラックである “Strangefolk” をついに公的に聞くことが出来るという事実、多くの注目が集まった。これまでは海賊盤でさえ聞くことが出来ず、この曲が存在しているという唯一の証拠は、“2 つの大きな討論” ではなく “2 つの抜粋 (版)” しかなかった（一つは 2003 年発売の『Kollekted』の最後にシークレット・ボーナス・トラックとして収録されているもの、もう一つは、1999 年の TV ドキュメンタリー『Cowboys and Indians』の BGM として一時的に聴くことが出来たものだ）。これらのクリップは、聴く機会を失ったのかもしれないという思いで（フルバージョンは 15 分もあったという噂もあり）、長年に渡りファンをじらし苦めました。新しい CD が今ここにあるが、曲の実際の長さは、いささか贅沢とは言えない 5 分間。これが 11 年待ちの後、唯一期待はずれなことだ。この曲は、宗教的なものと SF との間で方向性が変わる遠回しな歌詞と、60 年代のサイケデリアの多量投与が結合し、Kula の神秘主義的な傾向がベストな形で披露されている。

このスタジオバージョンの “Strangefolk” は、今、新しい



CD1 枚目の最後に正当な場所を得ている。どうやらそこは元々収録される場所だったようで、その位置は下げられなかった（注: 隠しトラック “Stotra” はまだ存在するが、今は “Namani Nanda-Nandana” の代わりに “Strangefolk” に続いている）。この新しい曲順を受け入れるのに時間がかかる人もいるかもしれないが、聞けば聞くほどそれはより多くの感覚を作り出す。今、ついにこのとてつもないアルバムは、それを仕上げられる唯一の方法、本当にとてつもないシメの曲で終わる。

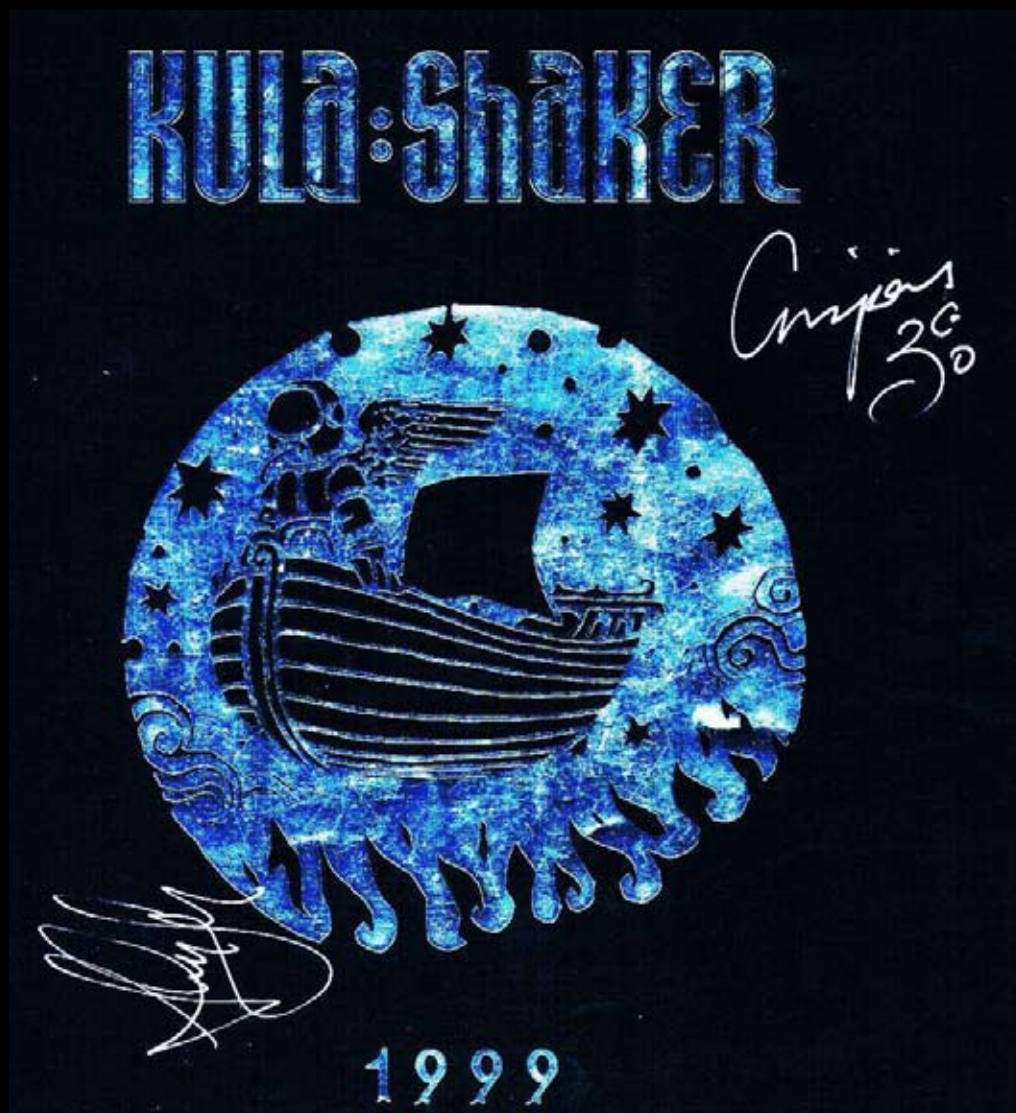
“Strangefolk” をもっと聴きたいという人のために、CD2 枚目にはデモバージョンも収録されている。さほど手の込んだものではないのは明らかだが、まだなんとかサイケデリックな感じは十分にある。スタジオバージョンには入っている「In the beginning…」という最後の繰り返しはここではカットされ、代わりに効果的な Beatles 風なインストでフェードアウトされている。“Sound of Drums” の非常に楽しい別テイクである “Sound of Love” も同 CD に入っている。この歌詞は、“Sound of Drums” のそれと違ってより屈託のないバージョンで、精神的なものをとても強調している（この「革命 (revolution)」は、明らかに本来は「楽しみ (fun)」のためではなかった……か、なかったようだ）。そして、最終的なスタジオバージョンと容易に合致する “Golden Avatar” のデモも収録されている。音楽面での最後の収録曲は “Avalonia” だ。最初のレポートでは、これは未発表の Rick Rubin プロデュースによるテイクだろうと言われていたが、最終的に CD に収録されているのは、'99 年に Mystical Machine Gun シングル盤のカップリングを飾ったのと同じバージョン（デモ？）であると判明。しかし、たとえ今回収録されているバージョンが聞き覚えのあるものとしても、楽曲のクオリティーは疑う余地もない。

CD2 枚目には、Crispian と Alonza がジャーナリスト Roger Morton とアルバムの裏話を語り合ったロングインタビュー(46 分間) で締めくくられている。インタビューは、いかにしてこのアルバムが生み出されたかというたくさんの裏話や、根強いファンでさえ初めて聞くかもしれないいくつかの貴重な情報で、聞くものを惹きつけた(例えば、Brian Wilson の伝説的協力者である Van Dyke Parks が、このアルバム制作に参加したことが明らかにされた)。しかし、たとえそれがあまり有益なものではなかったとしても、それでも Crispian と Alonza の会話が聞ける楽しみには価値があるだろう。二人は面白く話を伝える方法を心得ているからこそ、お決まりの素っ気なくて単調な話し方をするのではなく、インタビューに応えるロック・ミュージシャンがたくさんいる中で、人目を惹くような洗練された話をしてくれるのだ。

この再発盤の美しいパッケージについても触れなければならない。最初の 3,000 枚は限定盤で、しっかりとした作りの CD サイズのハードケースに収められている。このリリースのためにアルバムジャケットが改良されたことは注目すべき点だ。見事なダイバースーツ姿の宇宙飛行士はまだアルバム前面を美し

く飾っているが、今、彼が昇っているエスカレーターは、オリジナル盤で見られる濃い森林地帯の代わりに、虹の下で日に輝く景色に到着している(よりポジティブな新しいジャケットは、ふさわしくない無名な状態の影から、ついにこのアルバムが姿を現すということを象徴しているのだろうか?)。ブックレットの中身はオリジナルの PP&A のそれを密に継いでいる。“Strangefolk” の歌詞 および追加クレジットはきちんと加えられているが、オリジナルのデザインテーマを破壊していない。アルバムに関連したアートワークのポストカード 4 枚が、パッケージの締めくくりとして封入されている。

これは『Peasants, Pigs and Astronauts』の最後のリリースなのか? いや、実のところはノーだ。これらのセッションから聞くことが出来る曲がさらに存在する。同時期のミステリアスな未発表曲のタイトルは(“Sister Breeze” のような)、長い間ファンの間で議論されている。いつの日かそれらの曲も聞けることを望むだけだ。(数年前は、“Strangefolk” 自体を聞くという望みが、幻想以外の何ものでもなかったということに心に留めておくように……) しかしまあ、そのうちまくいくだろう。



Gig impressions 2009

PARKPOP (HOLLAND)



Photos: Andrea Zachrau

SOLFEST (UK)



Photos: Dan Wilson

YPSIGROCK (ITALY)



Photos: Apolidia



The Devine Couple Lord Krishna and Radha

Victory to Krishna

ファンはもう何度も繰り返し聴いている曲だが、“Govinda”とは正確にはどういう意味なんだろうか？ イギリスに住むインド人の学生、Vaebhav Badal が、サンスクリット語の歌詞の裏に隠された真意をどのように解説しているか、読んでみよう。

これらの歌詞は非常にシンプルである。というのも、大部分はクリシュナ神に対して繰り返されているものだからだ。インド文化では、一つの存在に対し、様々な名前がある。クリシュナの場合、他に次のような別称がある。Govinda、Gopala、Radha-Raman(Radhaに夢中という意味)、Narsingadeva(クリシュナの化身の一つ)、Gaura、そして Prabhupada というのは、クリシュナ意識国際協会 (ISKCON) を通して西洋諸国にクリシュナの名前を持ち込んだ聖人の名前である。

Govinda Jaya Jaya	Govinda (クリシュナ) に勝利を
Gopala Jaya jaya	Gopala (クリシュナ) に勝利を
Radha-ramanahari	Radha に夢中なその人に勝利を (Radha は簡単に言えばクリシュナ神の恋人)

Govinda Jaya Jaya	Govinda (クリシュナ) に勝利を
Nrsingadeva Jaya Nrsingadeva (twice)	Narsingadeva (半人半獅子のクリシュナ神の化身の一つ) に勝利を、 Narsingadeva に勝利を
Gaura Gaura Gaura Hari	クリシュナ、おおクリシュナ
Gaura Hari	ああ、クリシュナ神よ
Prabhupda	Prabhupada (西洋において ISKCON の指導者として有名な聖人)
Govindam	クリシュナ……

INTERVIEW

Flashes

from
Deep Inside

“Now we’re masters of our own fate”



さて、Kula Shaker の世界では何が起きているんだろうか？
一体何を計画していて、一体いつ新曲を聴けるのだろう？ 本誌は、それらを引き出そうと試みた。

新譜の進み具合はどうですか？

Crispian: もうすぐ完成するよ。レコーディングに約4ヶ月、ミックスに約3ヶ月もかかったんだ！ でもみんな満足してるしワクワクしてるよ。

誰がプロデュースしてるんでしょう？

Crispian: 基本的には、新譜は Alonza の作品だね。一緒にたくさんのアイデアに取り組んだけど、制作中ずっと僕らを深宇宙に導いてたのは Alonza なんだ。僕はあいつを捕まえようとして長年悩ませてた。今や Alonza は遂に成し遂げたんだ、素晴らしいね。

アルバムは全部ベルギーで録ってるんですか？ どこか他の場所でも録りました？

Crispian: 完全にベルギー製だね。ワッフルの匂いがするよ。

新譜に収録される曲のタイトルをいくつか教えて貰えませんか？

Crispian: Strangefolk のツアーが終わった後、Alonza と僕は、Hampton にある Alonza のお母さんの家のリビングルームで……17歳のときによく演奏したり曲を作ったりしてた場所

なんだけど、そこで紅茶を飲みながらたくさんの曲に取り組んだんだ。気分が一新したのが分かったよ。僕らがどこから来たのか、僕らが子供の頃に出発した音楽の旅や、自覚出来ていたアイデアや未達成のものが鮮明に分かった。Alonza が、“Ophelia” とか “Modern Blues”、“Sweet Sympathy” のような、凄くいいんだけど完成してない曲をたくさん持っててね。あと、Alonza が “Space Caravan” って名付けたおかしな曲とか。僕はそれらをアレンジしたり、歌詞を書いたり、ブリッジ部分やコーラス部分を作ったりして、準備を整えるのを楽しんだんだ。凄く古い曲も2曲あるよ。結果的にいい曲になった “Figure it out” みたいに、ずっと前に作ってたんだけど決して完成することがなかった曲。ゼロから作った曲もいくつかあるんだ、“Peter Pan R.I.P” って曲なんかがそうだね。

新しい楽曲をどう説明しますか？

Crispian: 自分たちで作品をプロデュースするっていうのは、遂に自分たちの運命を支配したような感じだったよ。というのはつまり、誰も僕らの作品のアイデアを僕らに対して変換する必要がなかったからね。僕らの思った通りに仕上がったのはこれが初めてだよ。

Strangefolk にはサンスクリット語の曲は、5分足らずの曲が1曲しか入っていませんが、厳密に言うと、資質的に叙事詩とは言えないですね。今度のアルバムには、8分間の、

現代の敬虔なサイケデリック・インディアン・ジャズナンバーは入っていますか？

Crispian: はは(笑) 実を言うと、凄く壮大な曲が1曲あるよ。サイケデリックな宇宙船というよりは幽霊が出るゴシック様式の廃墟だけだね。

今回、風変わりで素晴らしい楽器やエフェクター、アンプなどは使っていますか？

Crispian: 真っ先に浮かぶのは、色んな大きさや種類のもるものベルだね。グロッケンシュピールって言うんだ。

Harry: Kula Shaker のサウンドにどうにかしてパイプオルガンの音を取り入れたいと思ってたことは、皆知ってたと思う。大聖堂にはたいい大きなオルガンがあって、Chimay (※訳注: ベルギーの町) のも期待通りだった。キッチリ完璧には調律されてなかったから、それがかえて(思ってた以上に)素晴らしいサウンドになって、ホント凄くカッコイイんだ。僕の父さんは自慢に思うだろうね。思ってくれたらいいな。

アルバムはいつ発売になりますか？

Crispian: 2010 年だよ！

発売に伴って、どんなプロモーション活動を計画していますか？

Crispian: Strangefolk のときよりもっと力を入れる可能性



が高いね。あれは自分たちでも気付かないくらい静かなリリースだったからね。でもそれはそんなに悪いことじゃなかったよ、僕らは、我慢ならない再結成のあらゆるプレッシャーを感じずに、自然に成長して独り立ち出来るようになる必要があったからね。

Maurice Bacon についてもっと教えてください！

Crispian: 尊敬出来る案内人だよ。

Kula はいつ頃ステージに戻って来るのでしょうか？

Crispian: すぐに！

言うまでもなく、あなたは Kula Shaker としてたくさんの曲を書くでしょうけど、そのうちのごく一部しかリリースされませんよね。近々ボックスセットが発売される予定はありますか？

Crispian: そうだね、ボックスセットは進行中だね。

今ロンドンでは凄いバンドがたくさんデビューしていますが、その殆どが(レコード会社と)契約していませんし、おそらく今後もすることはないでしょう。その中に、あなたと関連があったり、親近感を感じたりするバンドはいますか？ もしくは、アメリカやヨーロッパやその他海外のバンドの中には？

Crispian: BUCKY 以外でってこと？ う〜ん、ちょっと考えさせて。

Asking Crispian...

父親としての一年目はどんな経験をしました？ パパになったことで、バンドとして、音楽や Kula Shaker に対する考え方は変わりましたか？

Crispian: うん、僕の人生において、すべてのものや人に対して百倍も感謝したよ。

Keshave は、新譜の制作においてあなたに何かインスピレーションを与えていますか？ もしそうであれば、どんな風に？

Crispian: 前は今よりもっと寝てたんだよね。寝てないことから来るある種の幻覚症状は……もしちゃんといい方に向かってたとしたら、ゾッとするような幻覚だけじゃなく、深い見識のひらめきも引き起こすことが出来るんだ。その発作中に全部の歌詞を書いたから、それに気付いてくれたらいいな。

Asking Harry...

口ヒゲにはワックスを塗ってるんでしょうか？ もし塗ってるようでしたら、どの製品を使ってるんでしょうか？

Harry: 使ってないよ。個人的には David Hemmings (※訳注: 英国人俳優) 風のボサボサの付けヒゲが好きだけど



ね。ケバケバしい顔ひげワールドには安易に足を踏み入れないよ。Salvador Dali は自分の地位、必須の支配力を維持するために、精液（おそらく彼自身の）しか使わないって噂だよ。Hercule Poirot（エルキュール・ポアロ）が沈んだのがどんな下劣な深みだったのかは神のみぞ知るね。

Asking Alonza...

田舎暮らしは作曲に影響がありましたか？ もっとのどかな感じになったとか……たとえば今度のアルバムにはフルートが使われているとか？

Alonza：田舎暮らしは僕のファッションセンスに影響を与えたよ、あと車選び、理想の車の選択にも。とは言え、隠れたヒッピーとして定期的に陶芸家たちのろくろを見学してるし、前々からちょっとした二部構成のフルートのハーモニーが大好きなんだ！（※訳注：陶芸のフルートという技法のことを指しているものと思われます）。これ以上この道を進まないようにするよ、でないと妖精のブーツやとんがり帽子を身に付けるようになってっちゃうだろうからね！

あなたが Led Zeppelin が以前所有していたギターを持てると随分前に聞いたのを覚えているんですが、まだ持っていますか？ Kula Shaker の曲で使ったりしていますか？

Alonza：昔、凄く素敵で 60 年もののギブソンのアコースティックギターを持ってたけど、残念ながら僕の元から奪われたんだ。僕が知る限り、Led Zeppelin のどのメンバーもあのギターを所有してなかったよ。けど、Motorhead の Lemmy がテレビ番組で使うのに一度借りてったよ（そのギターを盗んだのは Lemmy じゃないってことはハッキリさせておくよ）。

Asking Paul...

あなたの目から見て、ライブで演奏するのと比べてレコーディングはどうですか？ 正直なところ、どちらが好きですか？

Paul：Alonza と Crispian のいつ終わるともしれない“独創的なアイディアの提供”が続くスタジオにいるより、バンドと一緒にライブで演奏する方が断然好きだって言っても驚くことじゃないよ。僕は高揚感やヴァイブに夢中なんだけど、そういうものって殆どの場合ステージ上で得られるものなんだよね。でもスタジオっていう制限の中じゃ、前述の二人を除いた片方、つまり僕か Harry（ずっと前だったら Jay）、もしくはその両方は、それを壊す傾向にあるんだよ。Harry はもっと協調性があるよ、次のチーズがどこから来るのかってことを気にしがちだけど。「タレツジョ・フォンデユを頼みたい人は？」って。

今年はどこか屋外で泳ぎました？

Paul：屋外での水泳について言うなら、昨日雪の中、London Fields Lido（※訳注：ロンドン北部にあるレジャー施設）に行ったんだけど、あそこは良かったよ。あとは Hampstead Ponds に頻繁に行ってる。大抵は Robson Jerome と一緒に、そこにいる年配の男性たちにとってより魅力的なのは誰なのかってことを確かめに行ってるんだ。



Pilgrim's Progress



Some
snapshots
from
the studio



Travelling down memory lane

ピーターパンにまつわる秘話。Kula Shaker はどんな風にネバーランドを探検したのだろうか。

by Mary Nilsson

「ピーターパン」の起源は、1902年に「小さな白い鳥」として知られる大人向け小説に登場している。しかし、1904年に作者のJ. M. Barrieは、ピーターパンの役柄を、単に「ピーターパン」もしくは「永遠の少年」と題した演劇にした。最終的に、この演劇が商業的成功を得たことで、Barrieの出版社(Hodder & Stoughton)はこの演劇を、現在知られ愛されているストーリーに、一層拡大することを提案した。

大部分の人々は、人生のある時点でピーターパンの物語に出会い、ネバーランドでロスト・ボーイズやマーメイド、海賊、小鬼たちに出会う。ピーターパンは、まさに子供時代の魔法を体現化した物語だ。結局のところ、人生において、他にいつ自分自身の想像の中を自由に探検出来るだろう? 「ピーターパン」は多数の言語で幾度となく語られている物語であり、度々映画でも観られている。それらの中には、非常に有名なウォル



ト・ディズニー脚色の「ピーターパン」(1953年)や、つい最近では、Steven Spielbergによる現代的な手法を取り入れた映画「フック」(1991年)なども含まれているが、「フック」画では現代的なテイストが加えられている。なんとピーターパンが大人に成長しているのだ!

演劇やテレビ用に改編された数々のピーターパン関連作の中でも際立っているのが、「ザ・ロスト・ボーイズ」(1978年)として知られているものだ。Andrew BirkinによってBBCのために書かれたその作品は、Sir Ian Holm主演による、J. M. Barrieの人生を元にした自伝風のミニシリーズである。イギリスのテレビ業界で画期的な出来事だとささやかれた「ザ・ロスト・ボーイズ」は、J. M. Barrieと、Llewellyn-Daviesとその家族との関係を探求した。Llewellyn-Daviesには、George、Peter、Jack、Michael、Nicholasという5人の息子がおり、

ピーターパンの物語は、実はこの5人の子供たちのために書かれたもののようだ。このBBCでのテレビ放映の成功に続き、Andrew Birkin は J. M. Barrie の自伝風物語を書くことにした。シンプルに「J. M. Barrie とロスト・ボーイズ」と称されたこの作品は、1979年に (Constable Press から) 初版が刊行された (第二版は2003年に Yale University Press より刊行)。そのため Andrew Birkin は、100年以上にわたって子供や大人の想像力を魅了している J. M. Barrie の、今日においても最も洞察力のある伝記を書いたと言えるだろう。

したがって、Birkin 一家が架空のピーターパンと共有しているらしいこの関係により、Kula Shaker が “Anno's Africa” でのコンサートを新曲 “Peter Pan RIP(ピーターパンを偲んで)” のお披露目の場としたのは、何ら不思議なことではない。

何故かって？

1980年12月、世界中が John Lennon を失ったことにショックを受けている中、Birkin 一家は1980年12月9日に生を受けた息子、Alexander の誕生を喜んでいた。Alexander は安野光雅の「旅の絵本 (Anno's Journey)」を読み上げた後、3歳の時に Anno という名前を負った。昔から創造性に富み個性的だった Anno は、12歳のときにはもうギターの弾き方や詩や曲の書き方を習っていた。14歳で “Midstream” という最初のバンドを結成し、それとともに、“Durango 95” という2つめのバンドにも深く関わっていたが、そのどちらも1997年には消滅した。“Kicks Joy Darkness” というバンドを結成したことは、最終的には Anno の音楽経歴にプラスになったようだ。ファーストアルバムをイタリアで収録するという決断は、Anno、Billy Scherer、Alberto Mangili、Lee Citron からなるそのバンドにとって成功への道のように見えた。だが不幸にも、Anno と Lee Citron、そして Alberto Mangili は、2001年11月8日、イタリアのミラノ郊外で交通事故により死去した。

彼らの死に耐える方法を模索する中で、Anno の家族は Anno を追悼して慈善事業を開始した。“Anno's Africa” は、当初、ケニアの孤児たちに芸術的手段を通して自分たちを表現する方法を提供するために、試験的な構想の元、2007年に着手された。孤児たちは、こうした機会がなければ触れることが出来なかった、絵画や音楽、ダンス、ドラマといった、日常生活に耐える彼らを救う、独創的なはけ口を楽しむことが出来た。このことは、西洋社会の豊富な物質に恵まれていないこれらの子供たちの生活において、とてつもない変化を生んでいる。

チャリティーを支援してくれる後援者の興味を引ければ、という目的で、公演会は既にロンドンで開催されている。直近のコンサートは2009年9月に行なわれ、Razorlight の Johnny Borrell、および Anno の叔母である Jane Birkin、そして勿論 Kula Shaker の魅惑的な演奏が披露された。

Kula Shaker は、“Forever Young” や “Be Merciful”、“True Love will find you in the end” などを含んだ、私的な数曲を演奏した。しかし、来年へ続けばいいという新たな見識を私たちにもたらしたものは、美しいメロディーの新曲だった。現在、それは “Peter Pan RIP” という曲であることが分かっている。どうやら Alonza と Crispian が (Alonza のお母さんの家で、十中八九、大量の紅茶を飲んだ上で) 書いたもののようだ。“Peter Pan RIP” はその場に上手くフィットしており、Birkin 一家とピーターパンとの繋がりに見事に敬意を表してもいた。それと同時に、Anno のことを個人的に思い出す美しい曲だ。Anno は、(『Strangefolk』と『Freedom Lovin' People』の両方で成功を収めた) “Out on the Highway” を作る際に、多数のインスピレーションを提供したその人である。

毎日毎日聴いている多くの曲のように、“Peter Pan RIP” も、その印象がすぐには消え去らない。また一方で、2～3回聴いた後、歌詞がしみじみと分かり始め、心に残る感銘を与える。感情を深く掘り下げる曲だ。だが不思議な暗さのある曲で、歌詞は胸が張り裂けるようなものではあるが、子供の頃のとて楽しかった出来事をつい思い出してしまう。おそらくそれは名前がもたらす連想で、「ピーターパン」と聞くと、子供の頃に大好きだった素敵な物語と自動的に関連付けてしまう。楽しい思い出と関連付けてしまう一方で、その旋律の速度は、聴き手をリラックスさせる (もしくは、他にいい表現がないが、熱を冷まさせる) よう働きかける。どうやらこれは、(クリスマス前に Kula のウェブサイトでは試聴音源が披露された) “Space Caravan” などの他の新曲のメロディと結び付く格好いい雰囲気、に、上手く合っているようだ。2010年の Kula はこんな感じなんだろうか？ まだ新譜の本当のタイトルや実際の収録曲は分からないかもしれないが、この2曲から判断するなら、実に嬉しいサプライズが起こり得そうだ。そしてその合間に、『Peasants, Pigs & Astronauts』の記念盤の発売を楽しむことが出来る。この記念盤は、差し迫る新譜が到着するまで、ピーターパンと同様に聴き手を懐かしい思い出へと導くだろう。

Anno's Africa について詳しいことをお知りになりたい方は、下記ウェブサイトをご覧ください。

www.annosafrica.org.uk

PETER PAN R.I.P.



Gather round
This is the tombstone
of Peter Pan, R.I.P.
Say a prayer
For all the children
And everyone who still believes
Peter Pan R.I.P.

Chase the crows
From his resting place
Chase the crows
Across the street
Let the sun
Warm his bleeding heart
For he meant so much to me
Peter Pan R.I.P.

Peter Pan
Don't come back
They'll chain your feet
and break your back
Untie him
Remembering the days
Crying sweet tears of joy
Remembering the days
Games that we played

So now you know
This ain't no fairytale
His grave is there
For all to see
Let the sun
Warm his bleeding heart
For he meant so much to me
Peter Pan R.I.P.

Peter Pan
Don't come back
They'll chain your feet
And break your back
I'm crying
Remembering the days
Cry, sweet tears of joy
Remembering the days
Games that we played

Peter P, R.I.P.
Peter P, R.I.P.
Peter P, Rest In Peace

SPACE CARAVAN

Space Caravan

Where are we going?

I need to make a new start

I lost my home, yeah I watched as the winds blew away
away 'neath the sun

Sure as your heart is strong

Sure as this journey is long

Worlds never change, they just turn very slowly

They don't understand

Forever young

That's your promise

Love in a world without end

Travelling for free

Strange refugees

Weaving our way through the stars

Through the stars

Sure as your heart is strong

Sure as this journey is long

Worlds never change, they just turn very slowly

They don't understand

I wonder if you can

Space Caravan

Where are we going?

Weaving our way through the stars

I said goodbye, said "love never dies"

So farewell, so long, so long

So long

So long

BABY JESUS

"It has been said before that Christmas these days is less a time for spiritual thanksgiving but more and more to do with GSMs, PSPs, and LCD televisions. Christmas is a magical time of year so let us remember its true meaning and spare a thought for the little baby Jesus..."

Chorus:

Spare a thought for the baby Jesus
He became a real cool man
He turned water to wine, brought dead men to life
A good man was he
He probably drank tea
Jesus! On our Xmas Day!
Jesus! On our Xmas Day!

"Jesus was like way cool, totally radical he was. He wasn't interested in money or pleadings or having lots of followers. He helped people at the very bottom of society, like musicians. He told us to love one another, and if he went to a party he would turn all the water into wine. That must've been really cool!"

[Chorus]

"And the star did guide the wise men across many a strange land. And the shepherds did look on in great wonderment as Father Christmas arrived at the manger, tears in his eyes. And they said unto themselves "Wow! This Jesus is a really cool guy" (Don't Forget The Baby Jesus)

[Chorus]

“They are capable of great things”

Kula 新マネージャーが語る

by Andrea Zachrau



クーラキャンプによろこそ！ この巨大なファミリーにあなたが加わってくれて嬉しいです。Kula Shaker との仕事を楽しんでくれると良いのですが。

Kula Shaker キャンプに歓迎してくれてありがとう。Kula と彼らのクルーとの最初の旅でロシアに行った時、ファミリーに加わったと感じたよ。ファンの皆もファミリーの一部だと思うから、歓迎してくれて感謝します。

どうやって Kula Shaker と知り合ったのですか？

Alonza と Paul とは 8 年来の知り合いでね、僕が前のマネージメント職から離れた時、それを彼らが知って、Crispian に会ってみたいかと言ってきてくれたんだ。彼の印象も良かった。

いつから一緒に仕事をし始めたのですか？

去年の 2 月から。

Kula Shaker を初めて聞いたのはいつですか？

インディーズのレコード会社 (Ultimate Records) を 90 年代に経営していた時に。僕らは彼らと契約しなかったんだ。

バンドとの関係性は？

ビジネスの関係だけど、僕は人間としても彼らが大好きなんだ。

Kula Shaker について、もっとも驚いたことは何ですか？

偉大な音楽家達だということと、Crispian において、バンドには物凄いフロントマンがいるということ。

Maurice Bacon 「スパイダーマンでさえ僕に会えて喜んでるよ」

バンドにはどんな可能性があると思いますか？

無限だよ。すごいことを起こす能力があるし、その時に僕も一緒に居られたら嬉しい。

ニューアルバムについてはいかがですか？

びっくりするほど素敵な詞曲で、前作よりも少しメロウ。すべてがすごくエキサイティングで、Alonza のスタジオでのサウンドは信じられないくらい素晴らしいよ。

お気に入りの Kula の曲は？

今のお気に入りにはニューアルバムの中の数曲。きっとすべての Kula Shaker ファンはこのアルバムからお気に入りの曲を見つけられると思う。

新しいアルバムとツアーはいつになりそうですか？

今僕はエージェントとの打ち合わせの帰りの電車の中でこれを書いているんだけど、今年はたくさんの国でのツアープランがあるよ。アルバムは 5 月頃になるかな。

過去にあなたがマネージメントしたバンドは？

John Otway、Guesch Patti と、Mediaeval Baebes。

今までのところ、誰との仕事が一番大きなプロジェクトでしたか？

僕は常に 2 ～ 3 のプロジェクトを引き受けるだけだから、関わったすべてが大きな仕事だったよ。



*From the beginning to the end
Love is an arrow that you send*

*In the beginning was the word and the word was
AUM KESHAWAYA NAMAH!*